

2022年1月23日（顕現後第2主日、C年）牧師メッセージ
「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」
(ルカによる福音書4:14-21)

司祭ヨセフ太田信三

主イエスが洗礼を受けたとき、天が裂け、霊が鳩のように降りました。主イエスは霊に満たされて、神とともに歩み始めました。その歩みの目的は、「解放」「回復」「自由」をわたしたちにもたらすためです。このことが、今日の福音で主イエスが朗読したイザヤ書によって明らかにされています。「解放」という言葉は、「赦し」とも解釈できます。神さまから離れてしまうことが罪ならば、人が再び神と共にある命へと「回復」されることが「赦し」です。主イエスによってわたしたちは赦され、神と共にあるまことの命へと回復されます。天が開かれたことで、わたしたちにはいつでも、神とともに生き直す、赦しの道が開かれています。その命に与るなら、人は神に祝福された命を生きることになりますから、人はもはや自分自身の命を否定することや、互いを拒絶しあうことから「解放」され、互いの命を祝福しあう、まことに「自由」な命を得ることになります。主イエスはわたしたちにその命をもたらすために神によって遣わされ、神はそのために主イエスに油を注ぎ、霊により支えます。

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と主イエスは言われました。主イエスによってもたらされる命の回復は、「耳」から訪れるのです。「耳」を持たないなら、聖書のみ言葉を聴いても、神の語りかけも聴くことができません。しかし、「耳」を持つならば、あらゆる出来事を通して語られる神の言葉をわたしたちは聴くことができ、主イエスによってもたらされた福音に与ることができます。「耳」を持つ者に主イエスの言葉が響くとき、救いが実現する「今日」は訪れるのです。

主イエスを見つめることでその「耳」は開かれます。今日の福音書の舞台は、ガリラヤ地方からナザレという町へ、さらにその中の会堂、そしてイザヤの巻物を持つ主イエスの手元へと、グーッとフォーカスしていきます。そして朗読後には、主イエスに会堂中の人々の目が注がれます。このように、主イエスの手元へ、口元へと目が向けるとき、「耳」は開かれるのです。主イエスを見つめるなら、様々な声や音に惑わされてしまう耳が、主イエスの声を聴く「耳」に変えられます。その「耳」で聴くなら、主イエスによる救いが実現する「今日」がわたしたちにも訪れます。わたしたちの目を、心を主イエスに向け、「耳」を開いていただきましょう。